

ブラジルにおける 日本語教育の現状と課題

— ブラジル日本人移民百十周年を踏まえて

**日時：2018年6月4日（月）
14：30-15：30（14時開場）**
場所：京都外国語大学171教室
入場無料／使用言語：日本語

**京都外国語大学ブラジルポルトガル語学科
公開講演会「ポルトガル語圏の文化を知る」
協賛：京都外国語大学日本語学科・留学生別科**



研究目的・外国語として日本語を学ぶブラジル・ポルトガル語圏の日本語教育の現状と課題について、第二言語習得の観点から、

中間言語の定義・外国語学習者はその言語を学んでいく過程で、

母語と第二言語の対比を対照する。これを中間言語と呼ぶ。

比較の対象：日本語の音韻と対照の対象となるのはポルトガル語の音韻と対照する。

図表

日本語の音韻とポルトガル語の音韻の対照分析

日本語の音韻とポルトガル語の音韻の対照分析

日本語の音韻とポルトガル語の音韻の対照分析

日本語の音韻とポルトガル語の音韻の対照分析

**アリセ・タミエ・ジョウコウ
(Alice T. Joko)**

ブラジリア大学文学部、外国語・翻訳学科
日本語日本文学専攻准教授。日系2世。
サンパウロ大学日本語日本文学およびポルトガル語ポルトガル語文学専攻。言語学博士。研究テーマは話し言葉に関する研究で日本語とポルトガル語のポライトネスの対照研究、同二言語の音韻体系の対照分析など。平成二十九年旭日小綬章受章。